

丹尾丸（下野田町）

今から五百年程昔からの言い伝えです。

頃は室町時代の中期、応仁の乱で西軍となった水軍で名高い九州の島津軍勢が越前海岸へ上陸して来ました。

東軍、越前守護職の斯波家との戦いにやっけてたわけですが、その一軍の武将は気の庄（朝日町気比庄）という所まで来た時、その土地の豪族の美しい娘と恋におち、やがて二人の間にかわいい男の子が生まれました。

子どもは島津丹尾丸と名付けられ、若様として大事に育てられました。

そのうちに戦も終わり、九州島津本家から、「早く帰国するように。」と命ぜられました。武将は帰ろうとしませんでした。そこで、

「子どもは庶子として認めるから早く帰るように。」と催促されましたが、子どもも帰しませんでした。その後、今の下野田町に館をかまえ、この辺り一帯を治めるようになったといわれています。そして、それ以来武将は島津の姓を返上して丹尾の姓に改め、武将の名も秘められたまま現在に至っています。

家紋は丸に十の字、島津家の家紋ですが、かくし紋は王家の出を表す三階菱の紋で丹尾清隆家の屋根瓦につけられています。

以上が丹尾姓の由来だと聞き伝えられてきました。

注 応仁の乱

八大將軍足利義政に子どもが無かったので、弟義視が跡継ぎに決まったが、その後、実子義尚が生まれたので相続問題がおきた。畠山、斯波両管領家の家督争いも加わって、東軍と西軍に分かれて約十年間戦が続き京都は焼野原となる。